十勝地区国際理解教育研究会

事務局だより

NO. 1

発行者　十勝地区国際理解教育研究会事務局　　発行日　平成２１年１２月２５日

連絡先　事務局長：山川修（上士幌町立上音更小学校：上士幌町字上音更東１線 274 TEL01564-2-3860）

小豆の会

海外生活をされた方からの貴重な体験談を聞く「小豆の会」。今回は、オマーンの日本人学校に派遣されていた鈴木信夫校長先生のお話をお聞きしました。

アラビア半島で２番目に大きな国土を誇るオマーン。オレンジ色の砂漠の国です。

砂漠と石油と猛暑の国・オマーン

オマーン日本人学校は日本大使館附属の学校です。開校の時、初の日本人教師としてたった一人の派遣だったので、大使をはじめ大使館の方々には大変好意的に迎えていただきました。

特に当時の大使がマージャン好きで、マージャンを通じて交流も深めることができました。

小学校１年生から中学校３年生まで１５人の子どもたちを、たった一人で教えていました‥‥と言っても、子どもたちはとても優秀な子達だったので、そんなに手はかかりません。小学校１年生でも英語ペラペラ、かけ算も割り算もできるのですから。私が小学校１年生の女の子に英語を教わっていたくらいです‥‥。子どもたちの自学用に、ドリルをたくさん作りました。

天気予報はありません。いつも「晴れ」ですから。テレビで気温の報道はあるのですが、発表はいつも「４９℃」。「気温５０℃を越えると仕事が休みになる」という法律があるそうで。もっとも、鈴木家の寒暖計で気温を測ると、いつも５３℃でしたが‥‥。

イスラム社会には、一日５回のお祈り、女性の服装、ラマダン（断食の１ヵ月）、食生活など様々の厳しい戒律があり、それに従っての生活には不自由もありました。外国人はラマダンの期間に断食をしなくても良いのですが、当地の習慣を大切にするため、学校でも気をつかいました。

日本食レストランはありましたが、日本食はほとんどありませんでした。のりが食べたかったですね。日本から送ってもらったこともあったのですが、送料ばかり高く申し訳なくて、あまり頼みませんでした。

治安のとても良い国で、安全面では何も心配がありません。出稼ぎに来ているインド人が多かったのですが、強制送還を避けての保身のためか彼らは決して悪いことはしません。
家内が一人で外出できるような国でした。

○太陽よりも月が大切にされる社会。「太陽のように美しい」は×。たしかに、月の形を見れば「今日は何日か」すぐわかる、ありがたいもの。

○大使館のマージャンは、豪快な「自民党ルール」。詳しいことは‥‥（『事務局だより』にはとてもじゃないけど書けません。鈴木校長先生にお尋ね下さい。）。

○招かれた席で、主賓にサービスされたのは、何と羊の目玉！脳みそを食べる習慣もあるのです。

しかし、帰国まであとわずかとなった頃に湾岸戦争が始まり、当地の日本人企業は社員に帰国命令を出しました。生徒が次々と帰国する中、日本人学校教員として大使館員と共にオマーンに残りました。やがて飛行機や船舶の交通も遮断されてしまいましたが、一時再開された空路で帰国したのです。

帰国の途、ファーストクラスでの空の旅は、ＣＡの「お帰りなさい」の言葉に感動しました。
日本の税関でもフリーパス、最敬礼で迎えてもらいました。

地域の日本人コミュニティーをつなぐ日本人会の「かわらばん」として、『さらーむ』を自ら創刊し、編集・発行してオマーンの日本人に配布しました。
帰国後も大使館を中心に継続していたようで、創刊１００号を機に合本製本されたものが送付されてきました。「『偶然』ではない、『必然』の出会い」に感激しました。

派遣教員時代の鈴木先生

楽しいお話と、「空飛ぶ絨毯(!)」や「魔法のランプ(!!)」などオマーン直送(!!!)の貴重な品の数々。ちょうどこの日はシーズン初の大雪の日でしたが、お集まりになった３４人のみなさんと、熱砂のオマーンに思いを馳せたひとときでした。